

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第3区分

【発行日】平成24年1月26日(2012.1.26)

【公表番号】特表2011-506635(P2011-506635A)

【公表日】平成23年3月3日(2011.3.3)

【年通号数】公開・登録公報2011-009

【出願番号】特願2010-536945(P2010-536945)

【国際特許分類】

C 09 B 67/20 (2006.01)

C 09 B 67/08 (2006.01)

C 09 B 67/46 (2006.01)

C 09 C 3/10 (2006.01)

C 09 D 11/00 (2006.01)

【F I】

C 09 B 67/20 F

C 09 B 67/08 C

C 09 B 67/46 B

C 09 C 3/10

C 09 D 11/00

【手続補正書】

【提出日】平成23年12月1日(2011.12.1)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

顔料組成物の調製方法であって、

i) ポリアミンと顔料とを混合して、被覆顔料を生成する工程；及び

i i) 該被覆顔料と、少なくとも1つのカルボン酸基またはその塩を有する少なくとも1つのポリマーとを混合して、該顔料組成物を生成する工程、
を含み、該ポリマーがポリマー溶融物の形態である、方法。

【請求項2】

該ポリアミンが、非水性溶媒である第1溶媒中に溶解した形態であり、該方法が、該第1溶媒を除去して該被覆顔料を生成する工程をさらに含む、請求項1に記載の方法。

【請求項3】

該顔料が、水性溶媒である第2溶媒中に分散した顔料の形態であり、該方法が、該第2溶媒を除去して該被覆顔料を生成する工程をさらに含む、請求項1に記載の方法。

【請求項4】

該顔料が、付加された少なくとも1つの有機基を有する炭素生成物を含む改質炭素生成物であり、該有機基が少なくとも1つのアルキルアミン基を含む、請求項1に記載の方法。

【請求項5】

該ポリマー溶融物が、少なくとも1つのカルボン酸基またはその塩を有する第1ポリマー、及び少なくとも1つのカルボン酸基またはその塩を有する第2ポリマーを含み、該第1ポリマーが、約20～約100の酸価を有し、該第2ポリマーが、約110～約400の酸価を有する、請求項1に記載の方法。

【請求項 6】

該ポリマー溶融物が、少なくとも1つのカルボン酸基またはその塩を有する第1ポリマー、及びアミノ基と反応することが可能な少なくとも1つの非カルボン酸基またはその塩を有する第2ポリマーを含む、請求項1に記載の方法。

【請求項 7】

該被覆顔料及び該ポリマー溶融物が、高強度の混合条件下で混合される、請求項1に記載の方法。

【請求項 8】

該被覆顔料が、該顔料に吸着された該ポリアミンを含む、請求項1に記載の方法。

【請求項 9】

該被覆顔料が、該ポリアミンと該顔料との反応生成物を含む、請求項1に記載の方法。

【請求項 10】

該顔料組成物が、該被覆顔料と該ポリマーとの反応生成物を含む、請求項1に記載の方法。

【請求項 11】

顔料組成物の調製方法であって、

i) ポリアミンと顔料とを混合して、被覆顔料を生成する工程；

i i) 該被覆顔料と、少なくとも1つのカルボン酸基またはその塩を有する少なくとも1つのポリマーとを混合して、混合物を生成する工程；及び

i i i) 該混合物を、該ポリマーを溶融するのに十分な温度に加熱して、該顔料組成物を生成する工程、

を含む、方法。

【請求項 12】

顔料組成物の調製方法であって、

i) 少なくとも1つのカルボン酸基またはその塩を有するポリマーの溶融物を生成する工程；及び

i i) 該ポリマーの溶融物に、ポリアミンと顔料とを任意の順番で添加して、該ポリマー組成物を生成する工程、

を含む、方法。

【請求項 13】

顔料組成物の調製方法であって、

i) 少なくとも1つのカルボン酸基またはその塩を有するポリマー、ポリアミン、及び顔料を、任意の順番で混合して、混合物を生成する工程；並びに

i i) 該混合物を、該ポリマーを溶融するのに十分な温度に加熱して、該ポリマー組成物を生成する工程、

を含む、方法。